

TAC通関士講座

令和元年度 第53回通関士本試験

総評と科目別の分析

《総 評》

今回の通関士試験は、前年と同様に、難しい試験であったと思われる。

第1科目目（通関業法）は例年並みであった。第2科目目（関税法等）には、一部難問も含まれていたが、過去問を中心とする対策をしていれば、6割以上は取れる内容であった。

しかし、第3科目目（通関実務）において、難問が多く、相当点数が取りにくかった。前年と比較して、択一式は取りやすくなっていたが、輸出申告、輸入申告ともやや難化しており、延滞税の計算問題もこれまでにないパターンで解答しにくかった。

全体としては、やはり通関実務をいかに取りきるかが鍵であったといえる。取れる問題を確実に得点することが重要であった。

《科目別の分析》

1. 通関業法

前回の改正点である「在宅勤務」について出題されていた（第12問正解肢）。

語群選択式は、5問とも基本的な内容であったといえる。目的（第1問）、通関士の審査（第4問）については、これまでよく出題されており、好きな項目であることが再確認できた。

複数選択式・択一式については、一部において通達から細かい知識も出題されていたが、基本的知識があれば高得点が狙える内容であった。

2. 関税法等

語群選択式において、関税法から4問、関税定率法（解釈通則）から1問という出題であった（前3年と同じ）。いわゆる「日米地位協定」（第3問）については、おそらく誰も準備していなかったと思われる。これまで試験範囲とはなっていたものの、全く出題しておらず、語群を手掛かりにいくつか解答するしかない難問であった。減免税ではなく解釈通則からの出題がやや意外であったが、内容は基本的なものであった。第3問以外は基本的であり、特に第1問や第4問は十分出題が予測できた問題でもあったため、高得点を狙える内容であった。

複数選択式及び択一式は、かなりの難問もあった（第9、11、19、28問等）が、基本知識があれば正解できる問題が多かった。

3. 通関実務

輸出申告書は、例年よりやや難しい問題であった。「ココナッツジュース」の分類が難解であり、価格についても注意しないと並べ方を誤る危険があった。

輸入申告書では、食材でも纖維でもない貨物が出題された。分類（統計品目番号の確定）については、仕入書の英語名が難解であったが、関税率表と丹念に照らし合わせれば何とか分類できる内容ではあった。課税価格の計算については、按分計算をなくし、貨物ごとに判断させる形式であった。これは、部分点を取れるように配慮したものと考えられる。

最近の傾向として、「現場で資料を判断」する必要がある問題が出されているが、輸出入いずれも、類注（及び関税率表解説）を正確に読み取る必要があった。同時に、**基本的な分類知識の有無**によって解き易さが大きく違ってくる面もあった。

複数選択式・択一式は、出題項目としては前年を踏襲しており（第5～7問、13～16問等）、前年よりは解き易い問題となっていた。改正点（TPP11）について、やはり出題された（第3、17問）。

計算式の出題の内訳は、課税価格の計算3問、関税額・附帯税額の計算2問であった。第8問（延滞税）は正解しにくかったが、その他は正解すべき問題であった。特に課税価格の計算問題（第10問から第12問）は、それほど細かい知識は問われておらず、冷静に判断すれば取れる内容であった。

全体的にはやはり、取るべき問題を確実に得点することが重要であった。課税価格の計算及び第6、7、15問（現場で資料を判断する問題）の出来が合格のポイントであると思われる。